

特集

中学校における星空観望会のあゆみ

～地域連携をめざして～

飯田 広史（東大阪市立縄手中学校）

1. はじめに

現在、中学校では3年生で『天文分野』を学習する。そこでは太陽系、星の動き、惑星などについて学習するが、実際に星空を観測するということが授業に取り入れることは極めて困難である。

そこで全員参加にすることはできないが、体験的な学習を促進するために、公立中学校において星空観望会を行った。

2. 星空観望会

星空観望会を行うにあたって、「望遠鏡がない」「夜間活動の安全性」「場所の確保」「教師の知識・技術」など解決すべき課題は多々ある。著者は学生時代に天文分野の研究を行っていたため、ある程度の知識・技術は有しているが、今後持続的に星空観望会を行っていくためには、教師の知識・技術によらない運営が必要であると考えた。

これらの課題を解決するために、「地域・科学館・大学を巻き込んだ、星空観望会を放課後に実施」することにした。協力を要請した機関は東大阪市のプラネタリウム『ドリーム21』と『神戸大学サイエンスショップ・天文ボランティアアストロノミア』である。

2.1 H22 年度

日時：2010年12月14日（火）17時～19時

場所：東大阪市立縄手中学校 運動場

参加者：計70名程度

- 内容：・当日の天体の解説（大学生）
- ・望遠鏡・双眼鏡による天体観察（ターゲット：月、木星、スバルなど）
 - ・月を映しながらの解説（大学生）



図1 星空観望会の様子

2.2 H23 年度

日時：2011年7月8日（金）19時半～21時前

場所：東大阪市立縄手中学校 運動場

参加者：計220名程度

- 内容：・当日の天体の解説（大学生）
- ・望遠鏡・双眼鏡による天体観察（ターゲット：月、土星など）
 - ・プラネタリウム解説者による星々にまつわる物語
 - ・月を映しながらの解説（大学生）

H22年度からの変更点

中学生ボランティアを募り、事前研修を4回行い、当日望遠鏡の操作から解説までをさせた。



飯田 広史